



カンナ

46編は「指揮者に合わせて。コラの子の詩、アラモト調。歌」と記されています。「アラモト調」とは、ダビデに任命された詠唱者である **ゼカルヤ、アジェル、シェミラモト、エヒエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤ**は琴をアラモト調で奏で(歴代上15:20)とありますように、演奏のための用語であり、「乙女のような」と推測されています。英語訳では high-pitched(高音の)としています。琴は harps、豎琴は lyres、共に弦楽器として strings とも訳されています。古代の楽器では弦の素材、細さ、太さ、張り具合により調が定まっている琴が用いられていたのでしょうか。

最初の句である **神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦(46:2)** の **わたしたちの** という一語に胸を突かれます。詩人たちが皆一つの思いになって、歌ったのだという思いを強く抱きます。3節でも **わたしたちは決して恐れない** と、心を合わせていることが窺えます。この詩は3連からなり、1連では「山々が崩れ、海の水が沸き返っても恐れない」と現状を受容する意志を示しています。2連では「大河の水は神の都の喜びであり、神は都の聖所におられ、助けてくださる」と、根拠を語ります。詩人は捕囚となり、大河のほとりでこの詩を歌ったのでしょうか。3連では、**地の果てまで、戦いを断つ。弓を砕き 槍を折り、盾を焼き払われる(46:10)** という「神は戦いによるのではなく、平和により、圧倒的な支配をされる」との希望の言葉を歌います。そして、**力を捨てよ。知れ 私は神(46:11)** との神の声を聞き、詩人たちは平和の神を心から崇めるのです。詩人たちは **万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔** と、力強く、繰り返して応答しています。韻律が美しく、短く整えられた壮大な詩です。関連する讚美歌は多数ありますが、133「み神は避けどころ」はスペインのエスピノーザ(J. S. Espinosa 1940-)作曲の答唱の形の讚美歌です。参照 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-11-25>

47編もコラの子の詩です。**すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ(47:2)** と、「すべての民」に呼びかけて、賛美を始めています。ここでは楽器は「手」と「声」です。喜びと高揚感にあふれて、**主はいと高き神、畏るべき方／全地に君臨される偉大な王(47:3)** と、「至上の神」であると賛美します。神は **諸国の民を我らに従わせると宣言し／国々を我らの足もとに置かれた(47:4)** と、諸国の民を我らに従わせ、我らはすべての民の上に立つ者とされたと勝利を祝っています。**我らのために嗣業を選び、愛するヤコブの誇りとされた(47:5)** と、神は愛するヤコブ、イスラエルのために「嗣業」を下された。即ち、神の地位、財産、権力、責任を継ぐ者とされた、神の力は我らに与えられたと喜んでいるのです。そして、我々は神の民であると、神との一体感、誇りに沸き立っています。そして、神に向かって賛美しつつ、進み出ていくのです。最後に **諸国の民から自由な人々が集められ／アブラハムの神の民となる。地の盾となる人々は神のもの。神は大いにあがめられる(7:10)** と、イスラエルのみならず、諸国の民から自由な人々が集められて神の民となると歌っています。これは、第二イザヤが **今、あなたは知らなかった国に呼びかける。あなたを知らなかった国は／あなたのもとに馳せ参るであろう。あなたの神である主／あなたに輝きを与えられる／イスラエルの聖なる神のゆえに。(イザヤ55:5)** と預言したように、「諸国の民」が集められると、民族主義を超えた信仰を歌っています。そして、「自由な人々」が集められると、神を信じるのは、自由に生きる人であるとも歌っています。民族の垣根を越えて、ひとつの神の民となる。その民は地の盾となる、即ち、罪、悪、神に背く邪悪を防ぐ拠り所となるとの思いをも歌っています。「讚美歌21」には関連する讚美歌はありませんが、私はカトリック教会の典礼歌から取り入れられた5「わたしたちは神の民」新垣壬敏(1938-)作曲による讚美歌を歌いたいです。答唱の形をとり、一体感を盛り上げています。参照 <http://www.its.rgr.jp/data/sanbika21/Lyric/21-005.htm>